

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま宮原教室(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 6日		～ 令和6年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 9日		～ 令和6年 10月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 23日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達や特性、進路に応じた療育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路を意識した年中こざくらクラス、年長こざくらクラス(就学準備クラス)を開講 ・作業療法士立案によるうんどうクラスを開講 ・子どもの見立てと支援方針を共有し、関わりに繋げている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続 ・保護者の希望に応じ、継続した開講を目指す ・専門職入職に応じ、新たなクラスを開講
2	・丁寧な保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回のモニタリング面談に限らず、保護者の希望に応じて電話相談や面談を実施している ・幼稚園、保育園訪問を継続し、子どもの発達を三者(幼稚園・保育園/こぼん/保護者)で共有し療育に繋げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続
3	・安心して通所できる事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・療育前後の申し送りと振り返り、記録の共有をすることにより職員間が共通意識をもちながら支援をしている ・虐待研修をはじめ、各種研修をおこなっている ・表情豊かに、笑顔を大事にした支援を心掛けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・SNSの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、利用表の提出、出欠連絡を保護者自身がシステムに入力できるようにするアプリなどの活用が出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のシステムをペーパーレスに変更していく
2	・地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園との職員間の連携はできているが、園児との関わりができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園、幼稚園側とのイベントの調整や両者の保護者理解を得る必要があり、現実的には難しい
3	・医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の必要性、診断など専門性を問われる課題についての共有が困難(保護者を介しておこなうため、解釈が異なったりドクターの真意が不透明) 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の必要性、診断など専門性を問われる課題について共有する場があると良い

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま宮原教室（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	令和6年 10月 6日		～ 令和6年 10月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 9日		～ 令和6年 10月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 10月 23日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・発達や特性、進路に応じた療育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校児童、支援級児童共に将来の見立てと方向性を個々に見て判断しながら日々の支援に反映していく ・月1の課題製作：個々の発達段階をふまえた課題提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続 ・子どもの状況や保護者の意向をふまえた上での新たな取り組みを考える
2	・丁寧な保護者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回のモニタリング面談以外にも、保護者の希望に応じた電話もしくは面談等を行っている。常にオープンな環境作りをおこなう ・社会的支援が必要なご家庭に関しては、学校・支援課・相談支援との連携をはかる ・学校職員から事業所見学の受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続
3	・安心して通所できる事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・療育前後の申し送りと振り返り、記録の共有をすることにより、職員間が共通意識を持ちながら支援する ・虐待研修をはじめ、各種研修をおこなう ・表情豊かに、言葉遣いを丁寧に ・お互いに意見を言い合える環境を整えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の支援を継続

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	SNSの活用	Instagramやホームページが活用しきれていない	月1回の見発・放デイ合同行事の様子をInstagramに動画としてあげる
2	地域との関わり	地域の方々との関わりがほとんどない。(利用児童の兄弟姉妹を招いて保育体験等は行っている)	イベント等を通して検討していく
3	医療機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の必要性、診断など専門性を問われる課題についての共有が困難（保護者を介しておこなうため、解釈が異なったりドクターの真意が不透明） 	薬の必要性、診断など専門性を問われる課題について共有する場があると良い